



日本の公認会計士として日本及びインドネシアの大手監査法人勤務を経て、日本の会計税務及び親会社の考え方にも精通しながら、時には日本本社へも出向いてサービス提供。会計税務を中心とした日常的業務のお手伝いから、新規進出や組織再編、M&A など幅広い側面で日系企業を支援。

「急速に改善されるジャカルタの公共交通 (合わせ技編)」

加速度的に改善し、快適に利用できるようになったジャカルタの公共交通について、私の実体験を紹介します。

改善著しいジャカルタの公共交通と Google map の合わせ技で、日本国内と相違ないレベルで予定通りに快適に公共交通を利用しています。

<まずは全てを把握する Google Map から>

ジャカルタでは日本と比べて、道路標識を含め、あらゆる案内が街中にも道にも圧倒的に少ないです。移動に関して、良く知っている現地人には問題ありませんが、外国人は非常に困った状況に立たされます。その状況を大きく変えたのが Google Map の出現で、インフラの十分でないジャカルタにおいて、ネットの中で完璧な道案内を可能にしたのです。

どこに行くにも、まずは Google Map でルート検索します。今回は Aeon に行きます。検索するとバスが何時にくるのか、実際のバスの動きを示してくれますので、ほぼ待ち時間のないタイミングでバス停に歩いて行きます。バスで鉄道の駅に向かうのですが、駅までの時間も道路の混雑状況も鑑みた必要時間を示しており、その時間と大きく相違することはありませんでした。

<主要路線の電車は 10 分も待たず発着>

私がよく使うのは commuter train と言われ、ジャカルタ郊外とジャカルタ市内を結ぶ主要幹線なのでそもそも本数は多いのですが、それでも早朝深夜で無ければ 10 分も待つことなく電車が来ます。このような電車の発着状況ですので待ち時間が長くなることもなく、特に駅への到着時間は気にしなくなっていますし、既にジャカルタの鉄道に対してそれなりの信頼感を持っています。

<日本の中古が多いが問題なし>

バスも電車も車体自体は古いものが多く、日本で使われていた中古が多いです。車内にも車体の外側にも、様々な日本語の表示があるので日本で使っていた物

の中古であることが分かります。中古なので少し古い部分はありますが、汚いことはないですし、クーラーも効いていて快適です。

また、電車の車両が比較的多く(9~12両)、あまり混んでないことが多いのも良いと思います。その上、電車の運賃が6,000インドネシアルピア(約60円)であることも素晴らしいです。

<駅の周辺は開発のターゲット>

ジャカルタは現在、日本の高度成長期のような状況にあり、郊外とジャカルタの中心街を結ぶ commuter train に沿って新築の家やアパートが建てられ販売されています。日本のドーナツ化現象と似たような発展をしている印象で、それに合わせて日本の建売メーカーが進出して来ています。電車に乗っていると、まだ何も無いような駅が多いのですが、これも早々に市街地化してゆくと思われます。

私の目的地である Aeon は、駅の真ん前にアパートと一体となって建てられていますが、その周辺はいわゆるインドネシアの郊外の下町であり、小さな店がゴチャゴチャ点在している印象です。

